



エボラ出血熱と鳥インフルエンザA (H7N9) の現状

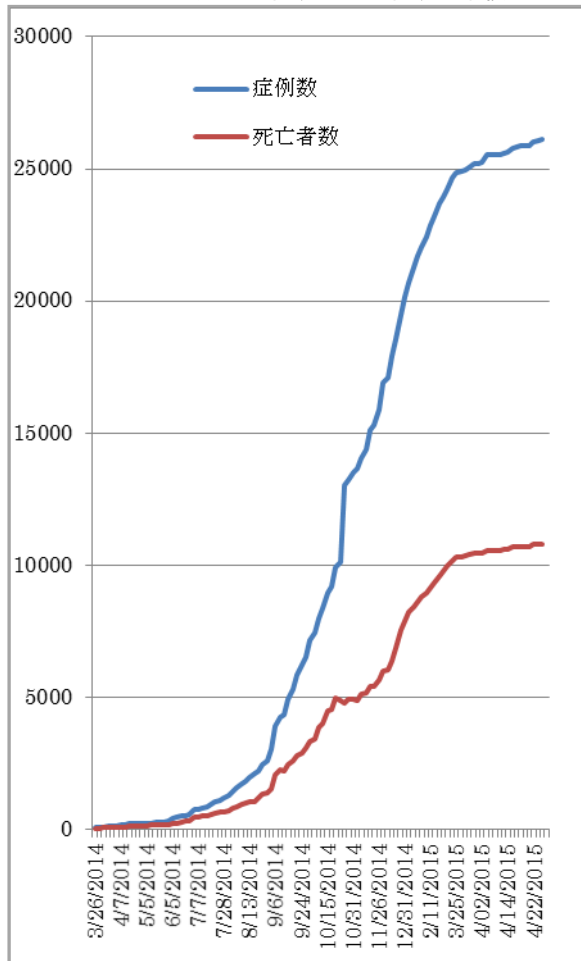
感染制御部

今月は、エボラ出血熱の現状と、あまり話題にならなくなりましたが、中国の鳥インフルエンザA (H7N9) の現状をお伝えします。

エボラ出血熱の現状～ほぼ制圧状態

エボラ出血熱は、これまでに26,000人の感染が確認され、10,000人強の患者が死亡しています(死亡率42%)。最後まで患者の増加の続いたシエラレオネでも今年に入り、急激に減少してきています。現在でもギニアとシエラレオネで小規模の流行が続いていますが、いずれの国も前週より患者数が減ってきており、制圧状態と考えられます。

エボラ出血熱の患者数と死者数の累積



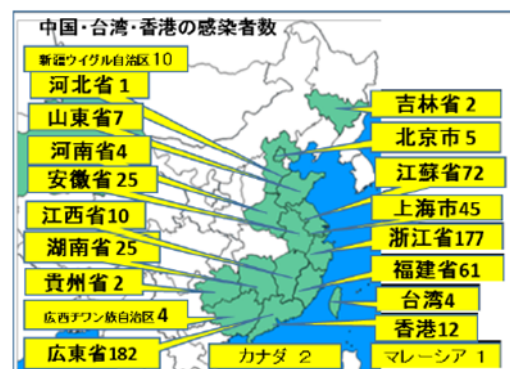
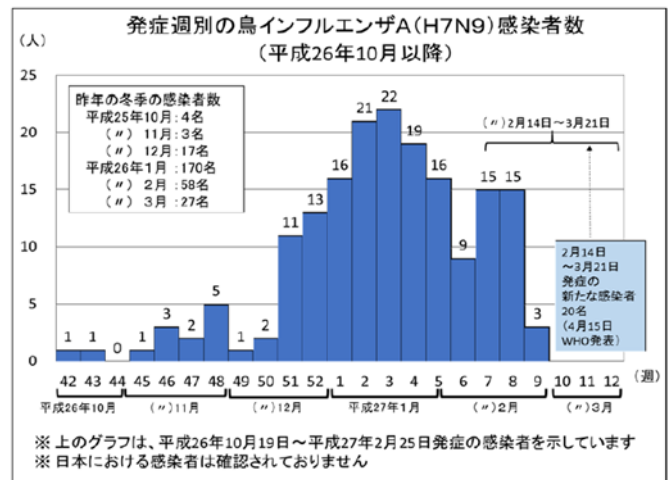
このまま減少傾向が続けば、夏ころには終息宣言が行われると期待できます。

鳥インフルエンザA (H7N9) の現状～中国で季節性に流行

一方で、ほとんどニュースを耳にしなくなった中国で流行している鳥インフルエンザA (H7N9) に

ついてですが、こちらは中国沿海部で季節性に流行を繰り返しています。日本では1月に感染症法上での2類感染症となりましたので疑似例から感染症指定医療機関に入院が必要な感染症となりました。

WHOの平成27年4月15日発表によりますと、現在までの発生状況は、感染が確定した者：651名、死亡者：253名で、死亡率39%になっています。このうち、今シーズン(平成26年10月以降)の発生状況は、感染が確定した者：196名で、下図に示すように、季節性のインフルエンザと同じ流行パターンを取っています。



流行地は上図のごとく中国沿海地方であり、現在中国からの訪日者の増加もあり、今一度38℃以上の発熱及び急性呼吸器症状があり、インフルエンザ流行時期の中国沿海部からの患者さんを診察された場合には、生きた鳥との接触歴を問診し、鳥インフルエンザA (H7N9) の可能性を疑い、感染制御部へご連絡ください。ただし、ヒト→ヒト感染は未だ効率よく起こることはありませんので、標準予防策の遵守と診断後のタミフルの予防内服が有効と考えられます。